

海外を旅 広がる選択肢

広島

人ものがたり

中学生の時、反抗期だった2歳上の兄がニュージールランドでのホームステイ後、別人のように優しい性格になっていたことに驚いた。「何が兄を変えたんだ」と海外に興味を持った。バックパッカーとして、これまで30か国近くを旅した。

楽しいことだけでなく、様々なトラブルにも見舞われてきた。兄と訪れたニュージールランドでは野犬の群れに遭遇。キャリアケースを抱えて全力で逃げた。昨年6〜9月、大学を休学して欧州約20か国を巡った際

大4年 啓啓 叡

西本愛希さん 22（広島市）



「襲われたことが怖く、震えが止まらなくなった」。

には、トルコで現金自動預け払い機（ATM）を操作中、後ろから突き飛ばされ、10万円分のユーロを奪われた。

旅の魅力を語り、「楽しいことは自分で見つけないといけない」と強調する西本さん（広島市佐伯区で）

ホステルで出会った中国人女性にそのことを話すと、「旅は人生に似ている。良いことも悪いことも起きるが、乗り越えるために強くなるしかない」と言われた。「旅人たちは動じない心を持っている。格好良く思った」と立ち直った。

価値観の異なる人たちから学ぶことは多く、心に残った言葉をノートなどに書き留めている。「人々との縁に救われてきた」と笑顔で振り返る。

広島市佐伯区出身。大学卒業後は県内の金融機関に就職する予定。これまで海外で出会った人たちに会いに行く計画があり、現在はアルバイトに精を出す。「色々な国で色々な人と話すことで、人生の選択肢が広がる。社会人になっても旅は続けたい」と力強く語った。

（別所満奈香）